

<p>教育目標</p>	<p>「自ら学び 心豊かに たくましく生きる生徒の育成」 基礎的、基本的な知識・技能・態度を修得させるとともに、自ら判断し、問題をよりよく解決していく「生きる力」を身につけさせる。</p>			<p>総合評価</p>
<p>教育方針</p>	<p>「日本国憲法」・「教育基本法」の根本精神に基づき、奈良県教育委員会の指導方針を踏まえた本校の教育を推進する。 本校は、校区内に世界遺産の法隆寺、小倉百人一首にも詠まれている龍田川があり、平成29年度に創立70周年を迎えた歴史と伝統のある学校である。聖徳太子の教えの『「和」の心を大切にし、ともに学び、ともに築こう。』を教育理念に掲げ、『チーム斑鳩 心一つに育み 支え つなぎ合う』のスローガンのもと、生徒も教職員も一つとなって、学習や行事、部活動などの学校生活のあらゆる場面において、いじめなどない調和のとれた学校となるように努めている。</p>			
<p>学校経営ビジョン</p>	<p>めざす学校像</p>	<p>めざす教師像</p>	<p>めざす生徒像</p>	
	<p>○誰もが行きたくなる学校 ○授業を大切にしている学校 ○笑顔と挨拶が溢れる学校 ○地域に信頼される学校</p>	<p>○わかる・楽しい授業を工夫する教師 ○生徒に寄り添い、真剣に向き合う教師 ○謙虚に学び、自己を磨く教師</p>	<p>○自ら考え、意欲的に学ぶ生徒 ○互いに認め合い、支え合える生徒 ○ふるさと斑鳩を自慢できる生徒</p>	
<p>前年度の評価と課題</p>		<p>今年度の重点目標</p>		
<p>学習面においては、授業状況調査の結果分析から、授業改善に向けた指針を得ることができた。また、全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語・数学のB問題に特化した対策を講じて、本校生徒の苦手とする領域の向上をより図っていく必要がある。また、chromebookを通じて、教師と生徒のICT機器の活用をより活性化させた取り組みが必要である。生活面においては、基本的な生活習慣は概ね確立できているようであるが、挨拶や正しい言葉遣いの定着に課題が残り、継続的な指導が必要である。積極的な挨拶や、場にふさわしい言葉遣いの大切さを理解させ、規範意識向上に向けた指導を展開していく。</p>		<p>1 学力の向上及び規律ある学習態度の充実を図る。 時間前行動を意識した学校生活を推進し、ICT機器を活用しながら生徒に学ぶことの楽しさを実感できる授業改善に取り組み、充実した家庭学習を推奨していく。 2 規範意識を高め、挨拶の励行や適切な言葉遣い・行動ができる生徒を育てる。 挨拶の励行、正しい言葉遣いを推進し、ルールやマナーを守れる素地をつくる。 3 いじめを許さない学校づくりを推進する。 いじめ防止に努め生徒のSOS(変容)を見逃さず問題解決に向けて組織として、取り組む。</p>		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価	成果と課題 (評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
<p>学力の向上 基礎・基本 の定着</p>	<p>学習した知識を活用する学習方法を身につけさせる。</p>	<p>○生徒に基礎的・基本的な知識・技能を身につけさせ、実生活の様々な場面において、活用・実践できるようにする。 ○生徒の学習習得状況に留意し、必要に応じて学習の補充を行っていく。 ●全国学力・学習状況調査で、平均正答率が県平均、全国平均を3%上回る。無回答を0に近づける。</p>				
	<p>学習集団づくりについて規律ある学習態度を身につけさせる。</p>	<p>○生徒が落ち着いた雰囲気、時間概念を意識した、けじめのある学習態度で取り組めるようにする。 ●授業状況調査結果において、「私は落ち着いた雰囲気、時間概念を意識した、けじめのある学習態度で取り組んでいる」の肯定的な回答を100%をめざす。</p>				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価	成果と課題 (評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
学力の向上 基礎・基本 の定着	授業構成について授業者が学習の見通しを持って授業を受けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業はシラバスに沿って進められ、授業のはじめに、提示された学習の「目標・めあて」を生徒は理解し、授業の終わりに、生徒が個々に学習の「振り返り」を行い、生徒が見通しを持って授業が受けられるようにする。 ● 授業状況調査結果において「教科担当者が学習の目標・めあてを示しておりそれを理解している」「教科担当者が学習の振り返りの時間を確保し、個々が振り返りを行っている」の回答を100%をめざす。 				
心の教育の 充実	あいさつ運動を推し進め規律と活気のある生徒の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活委員会を中心に月に2回のあいさつ運動を行い、学校内だけでなく地域でも元気よくあいさつができる生徒を育成する。 ● 学校評価アンケート（生徒・保護者・教員）結果において「すすんであいさつするよう心がけている」の肯定的な回答90%以上をめざす。 ○ 規範意識を高め、TPOを考えた言動をとれる生徒の育成を図る。日常から各学級において規範意識を高める説諭を行い、集会時には生徒指導主事から規範意識を高める説諭を行う。 ● 学校評価アンケート（生徒・保護者・教員）結果において「社会規範（ルール）やマナーが身についている」の回答を90%以上をめざす。 				
	丁寧な言葉遣い ができる生徒を 育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の教育活動全般を通じて「場」に応じた言葉遣いについて考えるとともに正しい言葉遣いができるよう指導を行う。例えば、道徳の授業で礼儀の意義を考える。また、日常から、教師が距離感を意識して生徒と接する。 ● 学校評価アンケート（生徒・保護者・教員）結果において、「場に応じた正しい言葉遣いができている」の肯定的な回答80%以上をめざす。 				
	自尊感情の高い 生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 互いの素晴らしいところ、見習いたいところ、頑張っているところ等を褒めあう活動を展開する。例えば、学活において「いいところ探し」のような認め合いの活動を行う。 ● 学校評価アンケート（生徒）結果において「自分のいいところを認めてくれる友達がいる」の回答90%以上をめざす。 				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価	成果と課題 (評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
心の教育の 充実	生徒理解を活かした教育の推進を図る。	○ 生徒が生き生きと学校生活を送れる学校をめざす。学校行事等を生徒主体として創り上げ、生徒に達成感を持たせる。 ● 学校評価アンケート（生徒）結果において「楽しく学校に通っている」という回答を90%以上をめざす。				
	不登校生徒が学校へ登校できる環境をつくる。	○ 校内適応教室を継続的に運営し、不登校生徒が登校できることをめざす。 ● 不登校の生徒が1人でも多く登校できることをめざす。				
生徒会活動の 充実	生徒会活動のより一層の充実を図る。	○ 委員会活動を活性化し、4月に1年間の計画を立て、その計画に基づいて生徒が責任を持って活動できるようにする。 ● 学校評価アンケート（生徒）結果において「係や委員などの生徒会活動に関心を持ち、積極的に参加している」という回答を90%以上をめざす。				
健康・体力・安全の 充実	体育指導の改善を図り、生徒の体力向上をめざす。	○ 体力テストの課題分析を行い、斑鳩中学校体力向上計画を立て、運動することの楽しさや、生徒の体力向上をめざす。 ● 持久走については、男子－15秒、女子－10秒、長座体前屈については学校全体で＋5cm、握力については男子＋6kg、女子＋3kgを目標に体育の授業を取り組む。また、第1学年については基礎体力向上のため、毎時の授業で様々なトレーニングを取り入れる。				
	食育のより一層の充実を図る。	○ 年に2回の栄養調査を実施し、残食率を分析する。その結果を各学級に報告し、各担任から指導を行うことで更なる食育指導の充実をはかり、生活の中で食事が果たす役割や健康によい食習慣について考える。 ● 給食の残食率を、前年度より、少なくする。特に牛乳の残食率を5%未満を目指す。				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価	成果と課題 (評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
健康・体力・安全の充実	安全教育を推進し、『安心・安全な学校』をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全教育を推進し、年間2回の防災訓練を行う。自然災害から身を守る知識や災害に適切に対応する能力を培う。また、事後学習として直近に発生した震災について学習する。 ○ 震災の日に合わせて、朝の学活を使い注意喚起を行うとともに、震災に関する知識を深める。 ● 避難訓練における避難行動開始から全員避難するまでの時間を3分以内にする。 				
	いじめの早期発見・早期対応に努め、生徒が安心して登校し、充実した学校生活を送れるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめに関するアンケートや教育相談、日々の生徒観察を通じて、いじめの早期発見、早期対応に努める。 ● いじめの重大事象「0」をめざす。 ● いじめの解消率「100%」をめざす。 				
特別支援教育の充実	特別支援教育に対する理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援教育コーディネーターを中心に支援委員会（ケース会議）を定期的開催し、個々の生徒の情報を共有し、実態に応じた支援を全職員に周知する。 ● 特別支援アンケート結果において、4段階評価平均数値3以上をめざす。 				
家庭・地域との連携	学校と家庭・地域が連携する体制の構築をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校通信「斑鳩の道」や学年通信、HP等をICTサポーターを活用して、学校の様子について伝える。 ● 学校評価アンケート（保護者）「各種たよりや電子メール、ホームページ等で、情報を積極的に発信している」の項目において90%以上の肯定的な回答をめざす。 				
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が地域に貢献できる活動を行う。 ● 藤ノ木古墳周辺の清掃やクリーン活動への参加を充実させる。 ● 学校評価アンケート（生徒）「地域の行事等に積極的に参加している」の項目において50%以上の肯定的な回答をめざす。 				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価			成果と課題 (評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
教員の育成	教員の指導力を向上させ、授業力の高い教員を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業研究を中心とした校内研修を実施して、研究討議を通じて自らの授業改善を図り、授業力の向上を図る。 ● 授業状況調査の結果において、各項目のレーダーチャート4段階評価(1, 2, 3, 4の順)の平均数値は、1, 2の範囲内をめざす。 						
	ICTを活用した教育の推進をめざす	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT教育推進リーダーを中心に、スキル向上(情報モラルを含む)や利活用の工夫についての研修会を行う。 ● 職員が電子黒板・プロジェクター等のICT機器の操作技術を身に付け、授業において利活用率を60%以上にする。 						
業務改善	教職員の働き方に対する意識改革を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 出退勤記録システムを利用して、出退勤の時刻を管理し、職員の健康状況を把握する。 ○ 業務改善のために勤務時間短縮の工夫をする。 ● 職員1人の時間外労働を月合計60時間以内かつ年間合計360時間以内を達成している職員が全体の70%以上をめざす。 						